

平成10年度 畑作関係除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成10年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成10年12月8日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、のべ作用性試験5剤、適用性試験42剤であ

った。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表の通りである。

平成10年度 畑作関係除草剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. AC-263 液 ・イマザモックスノニウム塩 0.85%	大豆	実	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	大豆出芽直前～出芽揃(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地		
	小豆	実	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	小豆出芽直前～出芽揃(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地		
	菜豆	実	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	菜豆出芽直前(雑草発生始期～本葉展開期) 菜豆出芽期(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地	1)金時類に限る	
2. CG-119α 乳 ・S-メトクロル 915g/L	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後雑草発生前	7～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・地域拡大 ・転換畑での効果について

A. 除草剤

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
2. CG-119α 乳 つづき	菜豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後雑草発生前	7～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・地域拡大
	落花生	実・継	一年生雑草	土壌	播種後雑草発生前	7～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	温暖地以西	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・低薬量での適用性の検討(暖地)
	とうもろこし	実・継	一年生雑草	土壌	播種後雑草発生前	7～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・地域拡大 ・処理時期の拡大
	かんしょ	実・継	一年生雑草	土壌	播種後雑草発生前	7～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	温暖地以西	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・低薬量での適用性の検討(暖地)
	てんさい	継								・効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
2. CG-119α 乳 つづき	ばれい しょ	実・継	一年生雑草	土壌	植付後萌芽前 雑草発生前	10～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・地域拡大 ・低薬量での適用性の検討
	こんにゃく	実・継	一年生雑草	土壌	植付後または培土後萌芽前 雑草発生前	10～13mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地 温暖地	1)広葉雑草(特に7か科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。 2)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・低薬量での適用性の検討
3. CG-119α + アトラジン水和 ・S-メタクロール 82% ・アトラジン 47.5%	とうもろこし	継								・効果、薬害の確認
4. CG-123α フロアブル ・S-メタクロール 285g/L ・アトラジン 300g/L	とうもろこし	継								・効果、薬害の確認
5. HSA-970 フロアブル ・フェンメチイデム 13%	てんさい (移植)	継								・効果、薬害の確認
6. HSW-971 乳 ・7°ロトリツ 15% ・IPC 25%	大豆	継								・効果、薬害の確認
	小豆	実	一年生広葉雑草	土壌	播種後雑草発生前	35～40mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地		
	菜豆	実	一年生広葉雑草	土壌	播種後雑草発生前	35～40mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地		

A. 除草剤

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準						継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
7. HSW-9104S乳 ・フェンメチアザム 10% ・デスメチアザム 2.3% ・S-メトクロール 7.5%	てんさい (移植)	継							・効果、薬害の確認
8. KUH-901乳 ・ベンチオカ-ブ 50% ・リニロン 7.5% ・ベンディメタリン 5%	とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前	50～80mL (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	全域	・低薬量での効果の確認(寒冷地以西)
9. KUH-959乳 ・フルチアセトメチル 5%	とうもろこし	実・継	イチビ	茎葉	イチビ3～5葉期 とうもろこし4葉以上	0.5～1.0mL (散布水量10L)	全土壌	温暖地以西	1)イネ科雑草対象の土壌処理剤と体系処理する。 2)処理時の葉に一過性の白斑が生じる場合がある。 ・地域拡大 ・薬害要因の解明 ・適用草種の拡大 ・イチビでの処理時期拡大
10. MON-96A液 ・グリホサートアゾンニウム塩 41%	大豆	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起10日以前雑草生育期(草丈30cm以下)	25～50mL (散布水量2.5L～5L)	全土壌	温暖地以西	1)少水量散布の場合には専用ノズルを使用する。 ・効果、薬害の確認 ・地域拡大 ・10L散布での効果について
	さとうきび (畦畔)	実・継	一年生雑草全般	茎葉	雑草生育期(草丈30cm以下)	25～50mL (散布水量2.5L～5L)	全土壌	暖地	1)少水量散布の場合には専用ノズルを使用する。 ・薬量、効果の再確認 ・多年生雑草に対する効果について ・10L散布での効果について
11. NBA-961顆粒水和 ・メタトロン 70%	てんさい (直播)	継?							・薬害の要因解明
	てんさい (移植)	実	一年生広葉雑草	茎葉	活着後雑草発生始～前期	40～60g (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒地	1)非イオン系展着剤加用

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
12. NC-331① 水和 ・ハロス70ソメチル 5%	とうもろこし	実・継	イチビ	茎葉	イチビ 2～5葉期 (とうもろこし 3～5葉期)	5～10g (散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西	1)飼料用とうもろこしに限る。	・ハマス ^g に対する効果について ・暖地での効果の確認
			ショクヨウカ ^g ヤツリ		ショクヨウカ ^g ヤツリ 2～5葉期					
13. NC-360 フロアブル ・キサ ^g ロキ ^g 7 ^g エチル 7%	大豆	実	一年生イネ科雑草 (但しス ^g ノカビ ^g は除く)	茎葉	イネ科雑草3～6葉期	20～25mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
					イネ科雑草7～8葉期	20～30mL (散布水量10L)				
	小豆	実	一年生イネ科雑草 (但しス ^g ノカビ ^g は除く)	茎葉	イネ科雑草3～6葉期	20～25mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
					イネ科雑草7～8葉期	20～30mL (散布水量10L)				
	菜豆	実	一年生イネ科雑草 (但しス ^g ノカビ ^g は除く)	茎葉	イネ科雑草3～6葉期	20～25mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
					イネ科雑草7～8葉期	20～30mL (散布水量10L)				
	てんさい	実	一年生イネ科雑草 (但しス ^g ノカビ ^g は除く)	茎葉	イネ科雑草3～6葉期	20～25mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
					イネ科雑草7～8葉期	20～30mL (散布水量10L)				
			多年生イネ科雑草(シバ ^g 、レ ^g ド ^g ト ^g 7 ^g)		イネ科雑草3～6葉期	25～30mL (散布水量10L)				
14. RH-632 顆粒水和 ・7 ^g ロハ ^g ニル 80%	ばれいしょ	実	一年生雑草全般	茎葉	萌芽前 雑草2～3葉期	20～30g (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)展着剤を加用する。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
15. RYH-104 顆粒水和 ・イキサリール 75%	とうもろこし	実・継 前年通り	一年生雑草全般	土壌	播種後 雑草発生前	1.5～2.0 g(散布水量10L)	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地 温暖地	1)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・地域拡大 ・イネ科雑草への効果の確認
						1.5～2.5 g(散布水量10L)	暖地			
	さとうきび	継								・効果、薬害の確認 ・薬害の変動要因の解明
16. S-28U ・ブタミス	ばれいしょ 粒 3%	実・継	一年生雑草全般 (但しイネ科、ソコ科は除く)	土壌	植付後萌芽前 雑草発生前	500～600 g	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西	1)有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する。	・低薬量での効果の確認 ・秋ばれいしょでの効果の確認
17. S-3263 ・クレゾム	小豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	10mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)スズメノカタビラには効果が不十分な場合がある。	
	菜豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	10mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)スズメノカタビラには効果が不十分な場合がある。	
	てんさい	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	10mL (散布水量10L)	全土壌	寒地	1)スズメノカタビラには効果が不十分な場合がある。	
	かんしょ	実・継 前年通り	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 2～5葉期	5～10mL (散布水量10L)	全土壌	温暖地以西	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・葉令が進んだ時の効果の確認
18. SB-508 ・ジメナミド	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	てんさい	継								・効果、薬害の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央 判定	使用基準						継続の内容
			対象雑草	処理 方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
19. SB-536 ・ジメチアト ・リニロフ	大豆 乳 14% 12%	実	一年生雑 草全般	土壌	播種後 雑草発生 前	40～50ml (散布水 量10L)	全土壌 (砂土を 除く)	寒地	
						40～60ml (散布水 量10L)		寒冷地以 西	
	菜豆	継							・効果、薬害の確 認
	とうも ろこし	実	一年生雑 草全般	土壌	播種後 雑草発生 前	40～50ml (散布水 量10L)	全土壌 (砂土を 除く)	寒地	
						40～60ml (散布水 量10L)		寒冷地以 西	
20. WOC-01 ・グリホサートイソプロピル アミン塩	大豆 液 41%	実・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起また は挿苗 7日以前 雑草生育 期	25～50ml (散布水 量2.5L～ 10L)	全土壌	温暖地 以西	1)少量散布の場合 には専用ノズルを 使用する。 ・地域拡大 ・効果の確認

最新 除草剤・生育調節剤解説 1998年版

企画・編集／財団法人 日本植物調節剤研究協会
B5判 285頁 本体5,000円(税別)

ジャンボ剤、フロアブル剤、1キロ粒剤など最近の水田除草
剤16剤。畑地・非農耕地除草剤5剤。水稻倒伏軽減剤1剤に
ついて、特長、使い方、性質、試験成績などを解説。

全国農村教育協会 〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
Tel.03-3833-1821 Fax.03-3833-1665